

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 10日は、発達した低気圧が千島の東を東進する。また、前線が東シナ海から日本の南にのびる。
- 11日は、低気圧が東シナ海の前線上を奄美付近に進み、高気圧が日本の東を東へ移動する。
- 12日から13日は、日本の南に前線が停滞する。日本のはるか東に高気圧が停滞する。
- 14日は、低気圧が沖縄・奄美付近を東に進む。日本のはるか東に高気圧が停滞する。

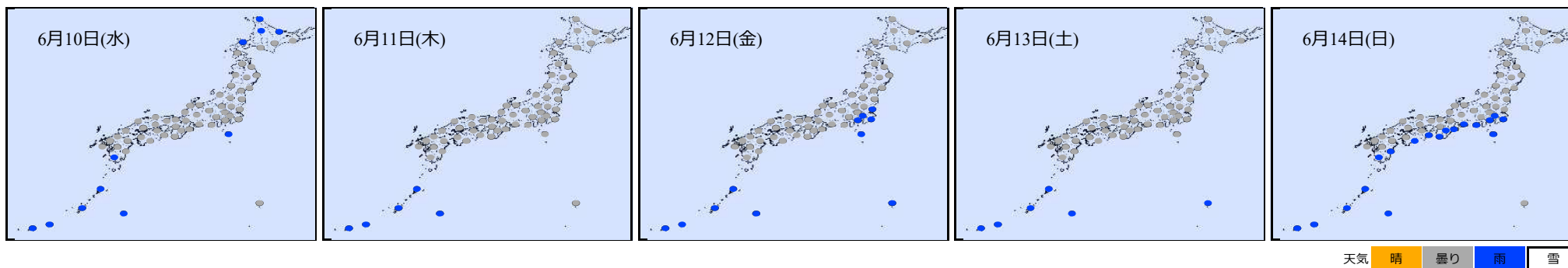
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 10日から11日頃は、沖縄・奄美では前線の活動の程度等によっては、警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

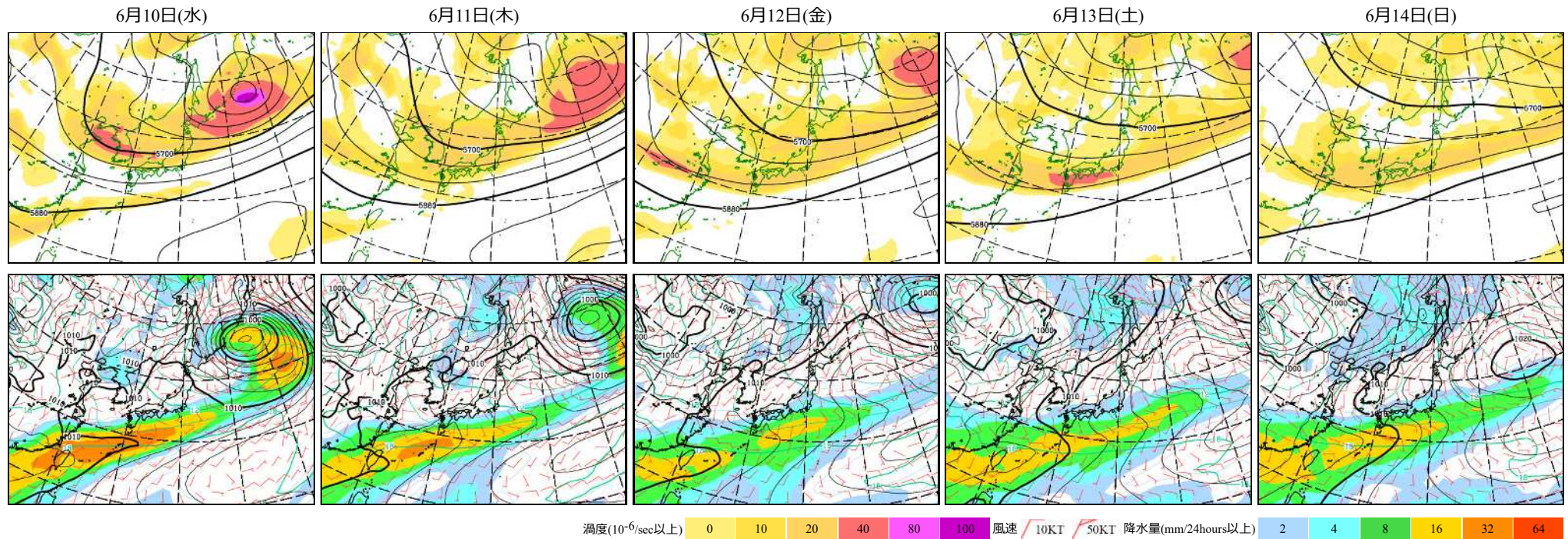
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

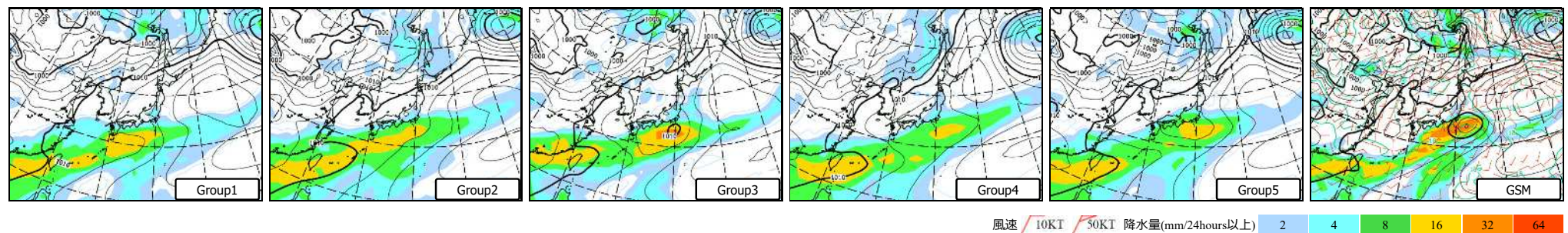


- 北日本は、曇りの日が多く、10日は雨の降る所がある。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月12日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、期間中頃の上空のトラフの予想が明瞭となった。地上は、日本の東の高気圧について、期間中頃は弱まり、期末に千島近海において強まる予想に変わった。
- モデル間で期間中頃の上空のトラフは概ね揃ってきたが、リッジについては違いが見られる。地上では、日本の東の高気圧の位置に違いが見られ、前線が本州南岸にかかるか、やや南に下がるかの違いとして表れている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基本とし、期間中頃の前線の位置は、海外センターも参考にやや南に下げて考える。